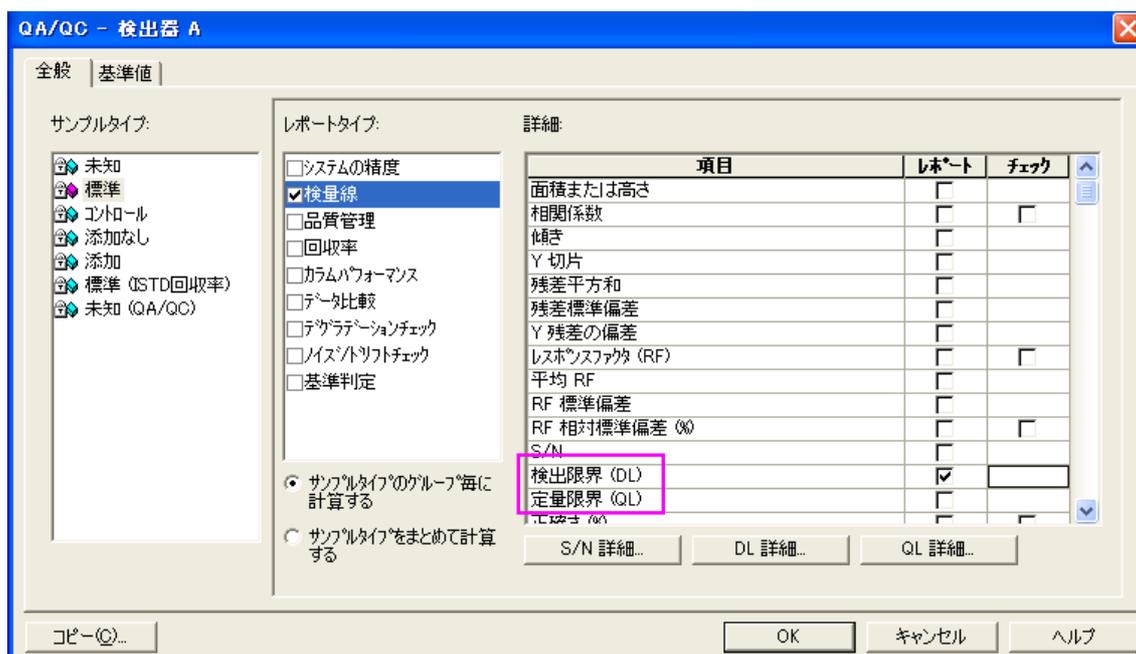


## ノイズレベルや検出限界/定量限界の求め方

解析を行うメソッドファイルの[QA/QC]画面でノイズや検出限界を求める際の計算方法を設定します。[LC 分析]ウィンドウ、[LC 再解析]ウィンドウいずれからでも設定は可能です。

1) [LC 分析]ウィンドウで[メソッド]メニューの[QA/QC パラメータ]をクリックまたは、[LC 再解析]ウィンドウの[LC データ解析(または PDA データ解析)]画面で[メソッド]メニューの[QA/QC パラメータ]をクリックし[QA/QC]画面を開きます。



2) サンプルタイプを計算を行いたいデータの (バッチテーブルの) サンプルタイプにあわせます。たとえば、標準試料データの検出限界を求める時には、QA/QC の[サンプルタイプ]を[標準]にします。

3) [レポートタイプ]で計算項目の設定を行います。検出限界や定量限界を求める時は、[レポートタイプ]の[検量線]チェックボックスをオンにします。[詳細]の[検出限界(DL)]または[定量限界(QL)]チェックボックスをオンにしメソッドを保存します。(計算方法の詳細設定は、[DL 詳細]ボタンまたは[QL 詳細]ボタンをクリックして詳細設定画面で設定してください。)

また、ノイズレベルを求める場合は、[レポートタイプ]の[ノイズ/ドリフトチェック]チェックボックスをオンにしてください。[詳細]に表示されるの各種計算方法のノイズ項目から該当するもののチェックボックスをオンにしてください。(計算方法の詳細設定は、各計算方法の[詳細]ボタンをクリックして設定してください。)

4) 計算には、バッチ処理を使います。[バッチテーブル]画面の[バッチ処理]アシスタントバーより[設定]アイコンをクリックし[設定]画面を開けます。[QA/QC]タグをクリックし、[QA/QCの実行]チェックボックスをオンにします。



バッチ処理を行うと、バッチファイルと同じフォルダ内に、結果の QA/QC ファイルが作成されます。設定の詳細は、ヘルプ機能などをご利用ください。